

収蔵品特集

中山 巍  
なかやま たかし  
Collection Special Feature  
NAKAYAMA Takashi

2023年12月15日(金) - 2024年2月18日(日)

FRI 15 DEC 2023 - SUN 18 FEB 2024



《婦人の休日(有閑女人図)》1930

主催：岡山県立美術館

開館時間：9:00~17:00 12月23日(土)と1月27日(土)は19:00閉館(入館は閉館30分前まで)

休館日：月曜日(12月25日、1月8日、2月12日は開館)、年末年始(12月29日~1月3日)、1月9日、2月13日

観覧料：一般350円、\*大学生250円、\*65歳以上の方170円、\*高校生以下無料

(\*学生証、年齢を確認できる証明書をご持参ください)

キャンパスメンバーズの学生は無料 障害者手帳等持参者とその介護者1名は無料

※同時開催の特別展『「鬼滅の刃」吾峠呼世晴原画展』観覧券でも入場できます。

たかし

中山 巍(1893-1978)は岡山市に生まれました。東京美術学校西洋画科を卒業して、同校研究科を大正11(1922)年に修了したあと渡仏します。パリでは美術学校以来の友人たちと交友しながら、ヴラマンク、シャガールと接して感化を受けました。昭和3(1928)年に帰国後、滞欧作を二科展で発表します。昭和5(1930)年に独立美術協会を創設して、生涯この協会で活動しました。

当館では平成11(1999)年に中山の個展を開催しています。以後ご遺族などから寄贈があり、このうち8点の作品を修復しました。現在所蔵品は69点です。滞欧中の《男の全身》(1924)、また帰国後に制作した《窓辺肖像》(1929)、《海浜》(1931)と《日曜画家と静物》(1932)、そして戦後の《鳥を飼う室内》(1964)などが興味深い作品です。《窓辺肖像》では着物姿の日本人女性を、《海浜》では水泳を楽しむ若者を、そして《日曜画家と静物》では和式住宅で油絵を制作する画家自身を取り上げました。ヨーロッパとは異なる日本の風土のなかで意欲作を描いています。

中山は生誕130年になりました。50点あまりの収蔵品(所蔵品と寄託品)を選んだうえで、滞欧期から太平洋戦争後に至る画業を、帰国後間もない頃の作品を中心に振り返ります。



《日曜画家と静物》1932



《鳥を飼う室内》1964



《男の全身》1924



《窓辺肖像》1929



《海浜》1931

※掲載画像はすべて中山巍の作品で岡山市立美術館の所蔵品です。

JR岡山駅後楽園口(東口)から  
— 徒歩:約15分  
— 路面電車:東山行「城下」下車 徒歩3分  
— 岡電バス:後楽園、藤原団地行き「天神町」下車すぐ  
— 宇野バス:四御神/瀬戸駅/片上方行き「表町入口」下車 徒歩3分  
— 循環バスめぐりん:益野線「表町入口」下車徒歩3分  
※ご来館の際は、できる限り公共交通機関をご利用ください。

関連事業(要観覧券)

フロアレクチャー  
講師 廣瀬就久(主任学芸員)  
12月23日(土) 18:00-18:30  
2月12日(月・振休) 14:00-14:30  
2階展示室

